

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第26回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働室		
開催日時	平成29年8月17日(木) 午後6時から午後8時		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	岩崎会長、田中副会長、相川委員、川口委員、藏原委員、佐藤委員、中井委員、山本委員、仲井委員、中島委員	
	その他		
	事務局	総合政策部長、参画協働室長、同室主幹、同室主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画について (2) その他 3 閉 会		

18 : 00～

1 開 会

2 議事 川西市参画と協働のまちづくり推進計画について

○会長

・川西市参画と協働のまちづくり推進計画について、委員の皆さまには事前に資料が事務局から送付されていると思うが、事務局から資料説明をお願いしたい。

○事務局

〈川西市参画と協働のまちづくり推進計画改定に伴う地域ヒアリングの回答について〉

・前回の一覧表から、回答数の多かった意見や重要なものをピックアップしている。

〈自治会とコミュニティの関係について〉

・コミュニティは単一自治会で担えない広域的な事業を行い、自治会では、より細やかで身近な課題に取り組んでおり、コミュニティ組織と自治会とで役割分担を明確にし、お互いに補完し合いながら地域のまちづくりのために活動をしている。

〈川西市自治会データ〉

・平成5年度から平成29年度までの自治会加入率のデータになるので、参考までにご覧いただきたい。

〈川西市参画と協働のまちづくりに関するアンケート結果〉

・前回の推進会議以降に、市内のNPO法人とボランティア団体にはアンケート調査、市内の商業者にはヒアリング調査を行った。その結果の概要である。

〈川西市参画と協働のまちづくり推進計画改定案〉

・現行の川西市参画と協働のまちづくり推進計画から第6章の「施策の方向と取組み項目」を抜粋し、計画の改定案として修正を加えたものである。修正箇所は網かけをしている。

○会長

・事務局より配布資料の説明があったが、これから推進計画の改定に向けて意見をいただきたいと思う。取組項目を中心に協議をしていきたいと思うが、どの項目でも結構なので、意見や質問をいただきたい。

○委員

・事務局に議論の進め方を確認したい。今回の資料は施策（案）の資料であるが、そもそも計画の立て方みたいな議論はしないのか。一般的には、近年の市内の状況や施策の変化をとらまえた上で、まずはどのような方向性でいくのかを考えた上で施策の話が出てくるのではないか。全体的見直しみたいな議論は、次回以降にするのか。11月が答申だと聞いているが、その間後何回ぐらい会議を開催して、どんな資料を使って、どんな議論をしてもらおうと思っているのか、全体的なスケジュールを先に教えてほしい。

○事務局

・今後のスケジュールであるが、推進会議で議論できる場は本日を含めて、後3回ある。その後、答申を経て、パブリックコメントという流れになる。今回私たちが考えていたのは、計画の中で核となる取組項目から先に議論をして、周りを固めていくという流れであった。委員ご指摘のとおり、川西市の状況などの背景的な部分は重要であると思うので、次回の推進会議までに整理をして、資料を作成したい。今回の推進会議では、取組み項目を中心に議論を進めていただきたい。

○委員

・確認であるが、施策の方向性の議論をこの場でするのか。そもそも、既存の3本の柱でい

くのかを議論していない。

○事務局

・現在のところ、基本的には、現行計画と同じ方向性で進めていこうと考えているが、こういった視点も入れた方が良いのではないかとといった意見があれば、おっしゃっていただきたい。

○会長

・地域カルテが引っかかっている。先ほどの説明で、あまり効果がなかったとおっしゃっていたが、これから、いっそう地域別に状況が変わっていくのではないかとということからいくと、これからは必要になってくるという気がする。

○事務局

・地域カルテに載っている情報は必要だと考えている。現行の地域カルテには様々なデータを掲載しているが、まちづくりと関係あるのかわからないデータもあり、データの内容については、精査する必要があるように思う。地域ヒアリングでは、カルテを更新してほしいという意見もあった。地域カルテという形にはとらわれずに、地域がまちづくりを進めていく上で、必要な時に必要な情報を提供できるようにしたいと考えている。

○委員

・地域カルテについて、先ほど見せてもらったが、この形のものを渡してもあまり効果がないと思う。この10年くらいで、統計がパブリックになってきており、〇〇町〇〇丁目に〇〇歳の人が〇〇人いるというデータが中学生でも取れるようになっている。これは提案であるが、情報共有の仕組みづくりのところで、エクセルデータを地域に渡して、データの取り方などの講習を開いて、地域でデータを更新してもらおうという方向にされた方が良いのではないかと。この項目は、止めてしまうのではなく、むしろノウハウを伝えて拡大をしていった

方が良いと思う。

○事務局

・地域の方にデータの取り方などをお伝えして、それを更新してもらおうというのは、1つの方法であると思う。既存の地域カルテは、平成25年度に紙ベースで各地域にお渡しをしたので、もらった方が必要ないと感じたら、引き継ぎがされないということになるので、データの提供の仕方についても検討する必要があると思う。

○委員

・6ページの自治会加入促進活動への補助を削除しているのは、効果が無かったからなのか。

○会長

・先ほどの説明ではそういうことであった。具体的にそれぞれの自治会はどのような加入促進活動に使ったのか。

○事務局

・1自治会あたり上限5万円だったので、イベント開催の一助としていた地域が多くあった。その時には自治会未加入者も交えての開催で、好評だったと聞いているが、その後、目に見えた自治会加入率の上昇には直結しなかった。

○会長

・下がらなかったといえるかもしれない。全国的なデータでは、人口が減って行って、それに遅れること10年くらいで世帯数が減り始める。69,488世帯の中に、高齢世帯と高齢2人世帯の比率がかなりある。その人たちが、世帯主として自治会活動に参加できるかといえば、実質難しい。そういうところからいうと、加入率は下がらざるをえない。加入率の上昇はかなりしんどい話だと思う。だったら、自治会の仕事を限定し、役員の軽減を図った方が、先が

見えてくるような気がする。

○委員

・福祉分野に関しての話であるが、私の知っている地域では、人口統計データなどをホームページから取って加工しているのが現状である。地域にはそれだけの力があると思っている。

・先ほどの自治会の加入促進の話である。社会福祉協議会で行う共同募金の実績が年々下がってきているという現状がある。そこで、自治会に共同募金をお願いして、金額の実績が上がった自治会にお金を還元するという案を考えたことがある。それを複数の自治会に確認したら、お金も大切であるが、お金が増えたことによって何か事業を増やさないといけないといった負担の方がよっぽどしんどいという話があった。それよりは、困った時に身近に相談できる体制を整えてくれた方がうれしいとのことであった。

○委員

・地域の回答を見てみると、桜小コミュニティ以外は、できてから30年くらい経っているが、中心になってやっていただいている方があまり変わっていない。同じメンバーで同じことをやっているという状況があちこちで見られる。書きにくいことではあると思うが、今回の推進計画の中には、「大幅な世代交代の必要がある」というような文言を入れることはできないだろうか。地域のトップの方が、大幅に変わっていくような時期にきているのではないかと思う。

○委員

・全体的にいえることだが、例えば2(4)⑦に「市民活動センターやボランティア活動センターなどの中間支援機能の強化と連携の強化」とあるが、後ろの方のページを見ると、それぞれの取組項目の中に「担当課等」の欄に「参画協働室など」とか様々な課が書いてある。人材育成とか発掘が、中間支援機能の強化や連携だけで解決できるのかとっていて、どこ

かで「庁内連携」のような部分も文言的に位置づけを明確にされたらどうか。

○会長

・市役所内の連携も重要である。庁内連携というと、一番敷居が高くなるのは学校である。今年の4月にコミュニティスクールが努力目標になった。学校が地域に開かれていくというのが流れになってきている。そういう意味でいくと、川西の場合は小学校区をコミュニティの単位としているので、学校支援という意味でのPTAとの繋がり、そしてPTA活動の延長としての地域活動への移行というのが一番望ましい世代交代の方向だろうといつも思っていて、それが徐々に制度として表れつつある。その流れをうまく担い手の発掘、育成、それから活動支援に繋げていく庁内体制は絶対に必要であり、コミュニティセンターを基本として、地域の方も世代交代をしていけるような、そんな取組が必要になるのではないかと。

○委員

・先ほどの話とか、ヒアリング結果を見ていると、やっぱり方向性として持続可能性というのが基本理念に入ってくると思う。今まではイベントをやって、新たに人がどんどん入ってきてというイメージでいたが、むしろ事業の棚卸をして絞り込んでいく。地域団体の方でも会議を減らすとか、本当に必要な事業だけやって後は外注するということが求められていくだろうし、有償ボランティアとか地域専従の事務局とかも本気で検討していかないといけないし、次の計画というと、計画の期間中に持続可能な地域コミュニティのあり方を検討するというのは、ひとつの柱になるような気がする。先ほど庁内の連携という話があったが、他の市では書類をたくさん書かされるのがたまらないので、手続きの簡略化や窓口の一本化という要望が地元からある。今は子どもがいない世帯が標準化しているので、独身の30代～50代をどのようにして巻き込んでいくのかという戦略をきちんと立てていくことが現実的かなと思う。今は、子どもがいないと地域活動に参加できないメニューが多すぎるので、一人暮らしとか、独身の方でも参加できるようなメニューを考えていくのが良いのではないかと。

○委員

・NPOも経営の視点を持っていて、事業はいろいろな助成金や補助金を取りながら充実はできていくが、その時発生する間接費用が取れないということで、その中で事業がいっぱい拡充することで疲弊感が生まれてくる。その時に考え始めるのが有償ボランティアであるとか、パートタイマー的な雇用できる事業をひとつ持っておきたいとかである。公益事業の中で、何か収益を取っていくことが、そこまで踏み込めない時に、何か雇用みたいなことができる事業がないかと考えて、若い方を取り込む時にそういうふうな事業、例えば行政からの委託や指定管理だとか、そういうものが、こういうことの視点で行われていると思うが、NPO側から思えば、そういうふうな事業があり、例えば子育て中のお母さんであったり、若いフルではまだ働かないという人たちの仕事の間として、そういうものを請け負って、そこで雇用することを入口にして、市民公益活動の視点とか、NPOの視点で、巻き込んでいくのもなきにしもあらずではないか。川西市で盤石な組織力のあるNPOを育てるという視点で、積極的に指定管理や委託などで、市民公益活動団体に任せていきたいと思いますという方向性が有効ではないか。

○委員

・自治会役員の負担軽減とあるが、自治会活動とコミュニティ活動の役員を兼務している人がかなり多い。それで仕事が増えているのではないか。もともと人材が少ないから兼務するという方向になっていると思うが、自治会の役員の仕事がそれほど多いのか。確かに3役の方は多いと思うが、決してできない量ではないような気がする。会長さんは大変忙しいと思うが、じゃあ後継者が全くいないのかといえ、アンケートでもあるように関心のある人は多くいる。自治会役員の役割を見直す必要があるのではないかと、また、自治会とコミュニティの活動を線引きすることによって、少しは軽減できる部分が出てくるのではないかと思う。

○委員

・自治会とコミュニティの線引きについて、行政の方で一律に決めるのは避けた方が良くと思う。まだ自治会が頑張れるというところは、コミュニティがそんなにやらなくてもいいし、地域の方が人口の推移や活動の良し悪しなどを踏まえて決めていく話である。計画に入れると行政が決めていくと捉えられるのではないか。

○委員

・私の地域では、何かあったら地域活動に参加したいという人が多い。60 から 65 歳の人達の中には、時間に余裕があり、パソコンも使えて企画書も作れる人がいる。また、その方たちの中にはコスト関係なしに協力できる人がそこそこいる。その人たちの有効利用が可能なのではないか。

○委員

・自治会の加入率が減ってきているが、自治会の班長が回ってくるタイミングで辞めている人が多い。自治会の班長をした人が、コミュニティにも関わってという流れで人材発掘ができるのであろうが、自治会の班長が回ってくる時に退会をするという流れをなんとかしないと難しいと思う。

○委員

・2 (3) ⑥に「市民活動センターや自治会館などの利便性の向上」とあるが、そもそも利便性の向上とは何を言っているのか。

○事務局

・公民館やコミュニティセンターは、全く一般の方が使えないという訳ではない。申し込みの条件や期限が煩雑になっており、そこを使いやすいようにしたり、施設の改修などをしたりして、市民の方が使いやすい環境を整えていきたいと考えている。

○委員

- ・空き家とか空き店舗の可能性はあるのか。

○事務局

・空き店舗については、現在のところ事例はないが、空き家については、平成 28 年度に自治会の整備事業補助金の要綱を改定し、地域で空き家について話をつけてもらい、居場所作りの改修などに、初期費用として活用できるような制度設計はしている。現在のところ事例はない。

○委員

・県庁から県営住宅の空き家を活用しないかという手紙をいただき、問い合わせをしたことがある。市営住宅の空き室で、子育て支援の集いの広場などに使わないかといった募集があれば手を挙げたいと思うが、そのような活用の仕方もあるのではないか。

○委員

・空き家の形態によって使える空き家と使えない空き家があると思う。むしろ使えない空き家の方が多いのではないか。我々の地域は旧の市街地なので、利便性を考えると、空き家となっているところはアクセスが悪かったりする。

○委員

- ・「ボランティアや NPO などの活動に参加している職員の割合」の指標は無くすのか。

○事務局

- ・指標としては、削除する。

○委員

・ボランティアに対する意識が高まっていないと感じるし、他からも聞いている。14.9%は決して高い数値とはいえないと思う。最初の目標値の30.0%をめざしていただきたい。

○会長

・「自治会などの地域活動に参加している職員の割合」と「ボランティアやNPOなどの地域活動に参加している職員の割合」を分けるとめんどくさい部分もあるが、地域活動に参加している職員の割合というのは、一つの指標になるのではないか。

○事務局

・指標として、「自治会などの地域活動に参加している職員の割合」と「ボランティアやNPOなどの活動に参加している職員の割合」を削除しているが、これから必要がないとしているわけではない。計画として作っていく中で、職員関係の指標が3つも並んでいるのがどうかと思った。そういったところから指標としては削除しているが、数値等は継続して把握を行い、数値を上昇させる取り組みは行いたいと考えている。

○会長

・こういう計画は、市民に対しての意思表示でもあるから、指標などの何らかの形で、地域活動に参加している職員の割合を示していくことは必要かもしれない。

○副会長

・本日は担い手の話などの苦労話が多かった。先日、尼崎で「みんなのサマーセミナー」というのに参加してきて、実行委員会を市民の方がやられていて、みんなが先生であり生徒であるような100以上の講座があって、そのような活発な活動がある一方で、非常に大変だという話も聞く。この関係というか、お互いが出会う場が必要であると感じていて、自分の楽しいことばかりめざしている人たちと、一方で着実に地域の活動を広げていっている人たち

が出会って関係を結べば、地域でも恐いものがないような気がしている。出会いを作っていくことが大事なことだと思った。

・全体を見て、最近だからこそ必要な活動があるのではないか。新しい項目を付け加えていいのかどうか、次回話していければいいと思う。

○会長

・これからの地域社会のことを考えれば、人口が伸びているところは別として、高齢化を前提にして地域で支え合う仕組みを作っていかなければならないし、そのために自治会が何でもかんでもやるかという、絶対に無理で、自治会がこれからやらないといけないことは、基本的に金にならないボランティアでしかできないことに限定していいと思う。だから、防犯・防災、それからお祭りを中心としたベースとなる絆づくりで、それ以外のことについては、持続可能性のことを考えたら、お金を介在させないと無理である。そうすると、そのお金を地域でどうやって回していくのか、コミュニティビジネスとしていくのかという観点で考えていくと、自治会の仕事ではなくて、乱暴ではあるがコミュニティとかNPOの仕事という整理でいいと思う。

・まちづくり推進計画のそもそもの理念であるとか、もう少し次の時代に向けて、本日のキーワードでいえば、世代交代とか、新しい地域の課題への対応をどうしていくのか、地域の情報処理能力をどうやって高めていくのか、そのような新たな基本施策の方向性がみえてくると思う。そこを整理してもらって、今後5年の間に川西のそれぞれの地域が、どのように変わっていくのかを踏まえながらの計画にしないといけないので、将来人口や世帯数など、それが14コミュニティ別により鮮明に差が出てくるはずだから、前提条件として載せておく必要があると思う。だからこそ地域の課題をそれぞれ自主的に解決する仕組みを作っていくためには何が必要なのか、そのようなストーリー構成をもう一度考えていただいて、次回にまた議論の遡上に乗せさせていただければと思う。

○委員

・私たちが、18歳の頃にはインターネットやSNSも無い時代であった。それが大学になってiモードとかが出てきて、そういうものになじんできたばかりの世代である。私もウェブライターの仕事をしたりするが、それでもFacebookの記事に載っていたりすると、大した額にはならないが、うれしい気持ちになる。先ににんじんがくるのかもしれないが、もっといいものを書きたいとなってくると勉強も深まるし、それが地域のことに繋がるのだとアナウンスをかけていくということは、動機が不純かもしれないが、取り組んでいくということに対して、目からうろこだったので、そういうアプローチの方法があるのではないかと思った。

3 その他

〈事務局からの次回に向けての連絡〉

4 閉会